

短歌の普及を目指して

第23回落合直文全国短歌大会が、9月28日、市内のホテルで開催され、入賞者や多くの短歌愛好者が参加しました。

この大会は、本市出身の、国文学者で歌人としても活躍した落合直文を顕彰し、気仙沼を文化の香り高いまちにしようと、落合直文会（西城重一会長）が毎年開催しているものです。

大会には、一般の部、高校生の部、中学生の部合わせて4、238首の作品が寄せられました。特に高校生と中学生の部に



多くの短歌愛好者が参加しました

は、市内の学校を中心に多くの応募があり、中・高校生の短歌への感心を高めるとともに、文芸に接する貴重な機会となっています。

優秀作品を表彰

大会当日は、3つの部門ごとに入賞者の表彰が行われました。

また、今大会の選者で、中央歌壇で活躍している短歌結社「かりん」の編集委員の小高賢氏が「老いの歌とユーモア」をテーマに記念講演を行いました。

小高氏は「団塊の世代が退職を迎え、年配の女性が多かった短歌の世界に、60代の男性が進出してきた」「これまでの短歌では『老いの歌』はなかったが、これからは高齢者が多くなる。自らの老いの体験を表現することとは意義深い」「自分を客観的にみることでユーモアが生まれる。ユーモアで新しい歌ができるのではないか。歌を自由に楽しむべき」と語り、これからの短歌の方向性を示唆しました。

第23回落合直文全国短歌大会入賞作品（抄）

一般の部

〈落合直文賞〉

夕さりて人影もなしひとり聞く十八鳴浜に砂のきしみを

原田 奈津子（仙台市）

〈選者賞〉

歩み板渡れば漁夫の船世帯幼さ残る炊き乗り込む

菅原 輝雄（気仙沼市）

〈気仙沼市長賞〉

ほころびし睡蓮の花涼しみて何処に在すおやゆび姫は

岩手 由貴子（気仙沼市）

高校生の部

〈落合直文賞〉

雨の日は雨の日なりに過ぐそうと雨のリズムに本をひろげる

小山 裕晃（気仙沼向洋高等学校3年）

〈気仙沼市長賞〉

笹舟を水路の上に浮かばせて追いかけていく子供の姿

昆野 舞（気仙沼向洋高等学校2年）

中学生の部

〈落合直文賞〉

君は只月を見る目で見惚れてる私は満月あなたはスッポン

遠藤 晃博（大島中学校3年）

〈気仙沼市長賞〉

意味もなく書いては消える波のせい僕にケンカを売っているのか

小林 響（気仙沼中学校2年）

写真：煙雲館庭園